臺灣日日新報 (木曜日) 昭和十六年十月三十日 (第二附録)
(朝治卅一年五月九日第三種郵便物認可)
第一万四千九百五十八號 A (一)

産業憲法制定の秋
工業化各論眞摯
臺灣經濟審議會第二委員會審議終了

二十七日より臺灣經濟審議會第二委員會は前日午後の二回に亙り第一、第二兩部會を開催、第二部會は早くも二十九日の午後の會議をもつて審了し、三十一日の總會に報告する運びとなり茲に第二部會は終了することに決つたが、この日第二部會に於いて審議會は「現下の情勢は本島に有利な工業の自然發展を許さない今や臺灣は前小林總督時代の工業化の方針を一擲し新たに産業憲法制定の秋に入つてゐる、今や臺灣は國力を傾けて工業化に邁進の決意を以て臺灣經濟審議會に於ける工業化に關する各委員の特殊方法として官側に電力會社、鐵鋼業者側に製鐵業者、民間側に化學工業者、ドック關係者、鑛業關係者、水産關係者、農業關係者、商業關係者、交通關係者、土木建築關係者、金融關係者の十一名の委員を擧げ、第二部會委員會（交通部會）に於ては鐵道、港灣、電氣事業、自動車、航空關係、郵便、電信、電話關係、觀光關係、倉庫關係、海運關係、土木建築關係、鑛業關係、水産關係、農業關係、商業關係、金融關係の順序で各委員より意見を聽取することとなつた、第一日は

社說

断末魔に喘ぐ舊法幣の末路

重慶政府崩潰の鍵を握す者

一

重慶政府が發行濫發政策とインフレ亢進の結果、舊法幣の信用が日に日に低落し、物價の暴騰を來し、國民經濟の破綻を招來しつゝあることは、既に屢〻報道した通りであるが、最近に於ける重慶政府の財政經濟當局者の苦心慘憺たる狀況は、實に想像に餘りあるものがある。

重慶政府が發行濫發政策を開始したのは、昭和十二年七月支那事變勃發後であるが、當時の發行額は僅かに十四億元に過ぎなかつたのである。然るに、その後、年々歲々發行額は激増し、昭和十三年末には二十四億元、昭和十四年末には四十六億元、昭和十五年末には七十五億元、昭和十六年三月末には八十億元、同年六月末には九十億元、同年九月末には百億元を突破し、遂に百二十億元の大台に乘せるに至つたのである。

二

蔣介石が、かゝる濫發政策を續けて行けば、遂には舊法幣の信用が全く地に墜ちて、收拾すべからざる經濟的大混亂を惹起すべきことは、百も承知の筈であるが、彼が敢てかゝる政策を續けざるを得ないのは、一に軍費の調達に窮するからである。

重慶政府の軍費は、昭和十二年度が十二億元、十三年度が二十億元、十四年度が二十五億元、十五年度が三十億元、十六年度が四十億元と、年々歲々激増の一途を辿つてゐるが、これに對する收入は、昭和十二年度が僅かに二億元、十三年度が四億元、十四年度が六億元、十五年度が十億元、十六年度が十二億元と、軍費の僅か一割乃至二割に過ぎないのである。

從つて、軍費の九割乃至八割は、發行濫發に依つて賄はれてゐるのであるが、發行濫發に依つて軍費を賄ふことは、物價の暴騰を來し、國民經濟の破綻を招來するの外、軍費の調達自體が益〻困難となるのである。

重慶政府が、かゝる窮地に陷つた最大の原因は、昭和十二年七月の支那事變勃發と共に、所謂經濟封鎖の名の下に、英米佛ソ等の諸國が、重慶政府に對する借款を中止し、且つ軍需品の輸出を禁止したことにあるが、その後、英國が昭和十四年五月、ビルマ公路を開通し、ソ聯が昭和十四年七月、新疆ウルムチ迄の自動車道路を開通し、更に昭和十五年十二月、佛印ハノイ迄の鐵道を開通し、米國が昭和十六年三月、武器貸與法を制定し、重慶政府に對する援助を開始するに至つたことは、重慶政府にとつては、實に百萬の援軍を得たるが如き感があつたであらう。

三

蔣介石が、かゝる窮地を脫するために、最も必要としたものは、軍費の調達であつたことは、前述の通りであるが、軍費の調達は、發行濫發に依つて、舊法幣の信用が全く地に墜ちた今日、到底不可能であるから、蔣介石としては、何としても、舊法幣の信用を回復し、物價の暴騰を抑制する必要に迫られたのである。

蔣介石が、舊法幣の信用を回復し、物價の暴騰を抑制するためには、先づ第一に、舊法幣の發行を停止し、收支の均衡を圖ることが必要であるが、軍費の九割乃至八割を發行濫發に依つて賄はれてゐる現狀に於ては、發行濫發を停止することは、軍費の調達を不可能ならしめ、軍事行動を不可能ならしめるものであるから、蔣介石としては、發行濫發を續けざるを得ないのである。

蔣介石が、發行濫發を續けざるを得ないとすれば、舊法幣の信用を回復し、物價の暴騰を抑制するためには、舊法幣に代つて、新通貨を發行するの外はないのである。

四

蔣介石が、新通貨を發行するためには、先づ第一に、新通貨の發行準備金を確保することが必要であるが、重慶政府は、昭和十二年七月の支那事變勃發以來、軍費の調達に窮し、發行準備金を殆ど全部、軍費の調達に流用してゐるから、新通貨の發行準備金を確保することは、殆ど不可能であるといふことが出來る。

蔣介石が、新通貨の發行準備金を確保するためには、英米ソ等の諸國から、新通貨の發行準備金を借款するの外はないのであるが、英米ソ等の諸國が、重慶政府に對する借款を中止し、且つ軍需品の輸出を禁止してゐる現狀に於ては、英米ソ等の諸國から、新通貨の發行準備金を借款することは、殆ど不可能であるといふことが出來る。

蔣介石が、新通貨の發行準備金を確保することが出來ないとすれば、新通貨を發行することは、不可能であるから、蔣介石としては、舊法幣の信用を回復し、物價の暴騰を抑制するためには、舊法幣の發行を停止し、收支の均衡を圖ることが必要であるが、軍費の九割乃至八割を發行濫發に依つて賄はれてゐる現狀に於ては、發行濫發を停止することは、軍費の調達を不可能ならしめ、軍事行動を不可能ならしめるものであるから、蔣介石としては、發行濫發を續けざるを得ないのである。

蔣介石が、發行濫發を續けざるを得ないとすれば、舊法幣の信用を回復し、物價の暴騰を抑制するためには、舊法幣に代つて、新通貨を發行するの外はないのである。

蔣介石が、新通貨を發行するためには、先づ第一に、新通貨の發行準備金を確保することが必要であるが、重慶政府は、昭和十二年七月の支那事變勃發以來、軍費の調達に窮し、發行準備金を殆ど全部、軍費の調達に流用してゐるから、新通貨の發行準備金を確保

全國民擧げ捧てつ擧り祈の謝感に米お

み試いし新て會賛翼

【東京發同盟】「お上に感謝を捧げまう」來る十三日の新嘗祭に當つての祈りを擧げる日となり、神社に參拜の擧國一致の實を擧げ、各官廳、學校への敬神の念想を徹底せしめることになつたが、來る初穂奉獻祭に際し參拜者が四下げ廿拍手二十五度四下げ廿拍手二十五度の參拜法で統一され

各地綜合版

消火團の運用を統一
高雄州消防隊（假稱）に有機的對策
火災防止に有機的對策

【高雄電話】高雄州では一朝有事の際多數發生される火災時に有機的統制を圖るため現在の消防組を初め部下の、特殊官廳、會社、學校、銀行、工場等自衛の消火施設を有する者に對し、それぞれ指揮者を定めて統制してゐるため各角度に火災が生じた場合これ等消火施設をも有機的に運用すべく、これが消火能力の增强を圖るため州當局では今回更に左記要領に依り一元的に統制運用する事に決定した

一、消防組、特殊官廳、會社、學校、銀行、工場等自衛の消火施設を有する者は一番ケ瀨、東石、鹽水港、白河、關廟、旗山、鳳山、屏東、潮州、東港、恆春、佳冬、枋寮、枋山、大武壠、里港

臺灣日日新報 第一萬四千九百五十八號 昭和十六年十月三日（木曜日） (一)

臨時議會を召集

詔書け ふ公布さる

【東京發同盟】臨時議會召集に關する詔書は二十九日附官報を以て左の如く公布された

朕帝國憲法第七條及第四十三條ニ依リ本年十一月十五日ヲ以テ會期ト定メ帝國議會ヲ東京ニ召集シ五日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

昭和十六年十月二十八日

各國務大臣副署

各産業部門別に審議

第一特別委員會

【臺灣經濟會議會議室二特別委員會ヲ開ク】

本島に工業の勃興が有利ならば自然的に振興するべきともあるが、現下の開發に於ては工業の開發の時期を待つべきでない、今や臺灣の工業化は水力發電の後を受けて長谷川總督より其の實現を充すべき產業開發計畫の時期に入つてゐる、總督府としては調査の不足を全然大に補つて行く心算であるが各種の計畫に當つて一層積極的な意見を吐露されたいとの希望が述べられた

二十七日より當會に附議された臨時議案總督諮問事項は第一日目の總會に於て說明いたが後早くも委員を總上げ第一、第二兩特別委員會の審査に入り、工業振興、交通運輸の各議題に關して各自の意見を吐露した

第一特別委員會は總督官房總務課長より臨時議案總督諮問事項の說明があつた後、工業振興に關する議題に關して審議に入つた

先づ工業振興については吉岡、石川、金子、久保田、鄭古の各委員より發言、工業用地の選定より勞務、金融、原料、動力、技術者の養成、工業組合、工業教育、工業試驗、工業指導、工業統計、工業獎勵、工業團體、工業組織、工業取締、工業警察、工業衛生、工業金融、工業保險、工業稅制、工業貿易、工業宣傳、工業研究、工業調査、工業行政

銃後の護りに蹶起

けふ國婦臺北地方本部で總會

千餘の會員ら誓も固く

婦人護國の大任を遂行

武藤國婦會長の祝辭大要

使命の完遂を望む

本間軍司令官の祝辭

輸送動脈確保に邁進

急行の近距離乘車極度に制限

鐵道旅客運賃引上改正案

南方醫學の殿堂

厚生醫學科誕生

南方共榮圈の醫學に一役

三笠宮同妃兩殿下

歓傍の聖地を訪づれ給ふ

故久邇宮朝彥親王

御五十年墓所祭

五十坪以上の休閑地

全國各家庭で

一錢宛獻金

銃後から赤誠獻金

海の精鋭に感謝の贈物

近代戰映畫の壓卷もの

現地撮影を終る

南門に榮冠輝く

學童水泳大會初等女子で一位

光る紅一點

司法試驗合格者二百九十九名中

北署管内で

時局講演會

代華族論を實踐

元農相の石黑忠篤氏

勳五等瑞寶章

臺灣神社前にて得

北署管内で

時局講演會

醫專に入學致シタ方

商況

眞心をペンに託して戰線へ！

丸善アテナインキ

本村トメ儀

河野光由

吳溪水

今夜のラヂオ

あすの天気

全國各家庭で

一錢宛獻金

樂音の玉東

十一月新譜

別離傷心

東京の青空

森の音樂

月の軍馬

上海波止場

急ぎの

ーリメトーレ

中將湯

（昭三郵便物認可）　昭和十六年十月三十日　（木曜日）　臺灣日日新報　第一万四千九百五十八號　（三）

南方共榮版

泰の動向を向討檢を討檢する

注視すべき中立策【上】

英の煽動で對日感情惡化

【バンコック卅日同盟特電發】英、米、蘭の對日包圍陣營がとみに激越しビルマ、マレイ、蘭印、ヒリッピン、豪洲の諸地域に於ける英米人に對する敵愾心が昂まるにつれ、これら諸國家群の軍事力に壓迫され、苦境に陷入つてゐた泰國の對日感情は急激に惡化の一路を辿つてゐる、泰人の間では英國のスパイ、英國とのつながりを有する者が一部中堅層人士間にも相當あつた

G　最近日本の地方進行者が「泰國」にゐるが、地方ではこれらの日本人達を英國人だと思つて居り、共ともに歐米諸國人だと思はせる樣にしてゐる、この際これらの眼前に於ける日本人に對する感情を緩和せしめる樣にすることは泰國に於ける日本人にとつて緊要事であり、又泰國としても日本人に對する感情を緩和することは泰國の中立を確保する上に於ても必要であり、この點については日本と英國との間に大なる差異が無いと言はねばならぬ

A　最近泰國の對日感情は日本のみならず世界各國の注目の的となつて居りますが、殊に日本では泰國の動向と云ふか、泰國を繞る國際情勢を有利に導いて居りますが、殊に

成層圏 102

廣津和郎作　大貫松三畫

事科行き (二)

「醫院先生に御面會の方、どうぞ此方へ」

一人の小僧が名刺を出して來て、長い廊下をあや子を案内して行つた。前に佐藤醫學博士に受附に現れて來たが、今からうして應接室が案内に立つたのは、やつぱり博士になつたために違いないと思ふと、あや子は感慨深まれて來た。——既にそうではなくて、あのいつぞやの晩、六本木の角でバスに乘る彼を見送つて以來會つてゐないので、あの時の氣持にこだはり、氣輕に出て來ないのかも知れないが。

一つの部屋のドアをノックし、「御面會でございます」といつてドアを開け、名刺盤を手に持つて、あや子に會釋しる。そしてあや子が部屋に這入ると、そのさき立つて行つた。——あや子は部屋に這入る前に、ドアの上の札に「內科第二醫長室」と書かれてゐるのを讀んだ。初めて、博士になつたばかりでなく、この醫院で彼が醫長に出世してゐたのだつたか。

職員の仕事服を着用つた給仕は、テーブルに向つて何かしきりと書きながら、椅子を彼女の方へ廻せてゐる。「どうぞ」と言つただけでいつたが、實には彼女の方を振向かなかつた。いかにも事務な仕事をしてゐるので、手が放せないという感じで、その忙しさうな態度に見てとれた。

「そこに掛けてゐて下さい。今これを書きあげてしまひますから」

「どうぞ御ゆつくり」

あや子は椅子に腰かけて、部屋の中を見廻した。彼女は彼が何人かの他の醫員達と机を列べてゐた前の醫局を知つてゐたが、それから見ると部屋は廣いが、一人分の部屋なので、何處かにゆとりがあり、テーブルや椅子も前の醫長家のそれよりは立派であつた。

「やあ、どうもお待遠しました」

やつと書き了へたといつたやうに、くるりと椅子を廻し、テーブルから煙草を一本取つて、悠然とそれに火を點けた。——醫員よりもあや子に對せるのが如何にも落着きうに見える。

「お目出度う、醫長さんになりましたのね」

「いや、まあやつと二人の部屋を持つことが出來るようになりました。溜の狀態の患者にかかつたので、こつちは寢ずあたいと思つたんですが、こつちも容易に代つては出來るといふものですから、向うが出來ても、容易揚たたりするわけにはいかないし、まあ、やつと二人の部屋を持つことになりました。——醫長室の隣が醫員室で、その隣が看護婦室になつてゐるんです。看護婦室には、今、三人ゐます。それから、廊下を隔てて、向側に、給仕室、醫局員室、研究室、標本室、レントゲン室、手術室、病室などがあります。病室は、一等室が二つ、二等室が四つ、三等室が八つあります。——」

「そんなにもありますの」

「ええ、今は、一等室は一つしか使つてゐませんが、二等室は、ほとんど滿員です。三等室は、いつも滿員です。病室は、全部で十四あります。」

「まあ、そんなに澤山あるんですの。わたし大いに感激しますわ」

「感激はやめ給へ。それよりも、君、ぼくの部屋を見てくれ給へ。ぼくの部屋は、醫長室の隣にあるんだ。ドアを開けると、すぐ分るよ」

「ええ、ぢやあ、ちよつと拜見しますわ」

あや子は、椅子から立ち上つて、ドアを開けて、隣の醫長室へ這入つて行つた。

「まあ、立派なお部屋ですこと。ほんとに、あなたは、いつの間にこんなに御出世なさつたんでせう。わたし大いに感激しますわ」

「九分五分——それは大ありさ。すべて、君が來てくれて、眞先に來てくれたからだ。君が來てくれなかつたら、ぼくは、いまだに、ぼくの部屋を持つことが出來ないかも知れないんだからね。——感激は小言を聞けた。

「とうだか。感激し過ぎられてゐる形もやあありませんか。あつはつはつは」

あや子も釣られて笑つた。

「醫院先生に御面會の方、どうぞ此方へ」

一人の小僧が名刺を出して來て、長い廊下をあや子を案内して行つた。前に佐藤醫學博士に受附に現れて來たが、今からうして應接室が案内に立つたのは、やつぱり博士になつたために違いないと思ふと、あや子は感慨深まれて來た。——既にそうではなくて、あのいつぞやの晩、六本木の角でバスに乘る彼を見送つて以來會つてゐないので、あの時の氣持にこだはり、氣輕に出て來ないのかも知れないが。

一つの部屋のドアをノックし、「御面會でございます」といつてドアを開け、名刺盤を手に持つて、あや子に會釋しる。そしてあや子が部屋に這入ると、そのさき立つて行つた。——あや子は部屋に這入る前に、ドアの上の札に「內科第二醫長室」と書かれてゐるのを讀んだ。初めて、博士になつたばかりでなく、この醫院で彼が醫長に出世してゐたのだつたか。

職員の仕事服を着用つた給仕は、テーブルに向つて何かしきりと書きながら、椅子を彼女の方へ廻せてゐる。「どうぞ」と言つただけでいつたが、實には彼女の方を振向かなかつた。いかにも事務な仕事をしてゐるので、手が放せないという感じで、その忙しさうな態度に見てとれた。

「そこに掛けてゐて下さい。今これを書きあげてしまひますから」

「どうぞ御ゆつくり」

あや子は椅子に腰かけて、部屋の中を見廻した。彼女は彼が何人かの他の醫員達と机を列べてゐた前の醫局を知つてゐたが、それから見ると部屋は廣いが、一人分の部屋なので、何處かにゆとりがあり、テーブルや椅子も前の醫長家のそれよりは立派であつた。

「やあ、どうもお待遠しました」

やつと書き了へたといつたやうに、くるりと椅子を廻し、テーブルから煙草を一本取つて、悠然とそれに火を點けた。——醫員よりもあや子に對せるのが如何にも落着きうに見える。

「お目出度う、醫長さんになりましたのね」

「いや、まあやつと二人の部屋を持つことが出來るようになりました。溜の狀態の患者にかかつたので、こつちも容易に代つては出來るといふものですから、向うが出來ても、容易揚たたりするわけにはいかないし、まあ、やつと二人の部屋を持つことになりました。——醫長室の隣が醫員室で、その隣が看護婦室になつてゐるんです。看護婦室には、今、三人ゐます。それから、廊下を隔てて、向側に、給仕室、醫局員室、研究室、標本室、レントゲン室、手術室、病室などがあります。病室は、一等室が二つ、二等室が四つ、三等室が八つあります。——」

「そんなにもありますの」

「ええ、今は、一等室は一つしか使つてゐませんが、二等室は、ほとんど滿員です。三等室は、いつも滿員です。病室は、全部で十四あります。」

「まあ、そんなに澤山あるんですの。わたし大いに感激しますわ」

「感激はやめ給へ。それよりも、君、ぼくの部屋を見てくれ給へ。ぼくの部屋は、醫長室の隣にあるんだ。ドアを開けると、すぐ分るよ」

「ええ、ぢやあ、ちよつと拜見しますわ」

あや子は、椅子から立ち上つて、ドアを開けて、隣の醫長室へ這入つて行つた。

「まあ、立派なお部屋ですこと。ほんとに、あなたは、いつの間にこんなに御出世なさつたんでせう。わたし大いに感激しますわ」

「九分五分——それは大ありさ。すべて、君が來てくれて、眞先に來てくれたからだ。君が來てくれなかつたら、ぼくは、いまだに、ぼくの部屋を持つことが出來ないかも知れないんだからね。——感激は小言を聞けた。

獻金 馬公公報

九月中旬獻金

（馬公市役所調）

一四圓一七錢　馬公市役所竹田國民學校兒童一同、三圓四七錢　同校竹田國民學校兒童一同、三圓四七錢　同校竹田國民學校兒童一同、五圓四〇錢　馬公市役所國民學校兒童一同、一〇圓六一錢　同市役所西國民學校兒童一同、一〇圓　同市役所東國民學校兒童一同、一〇圓六一錢　同市役所國民學校兒童一同、一〇圓　同市役所國民學校兒童一同、一〇圓　同市役所國民學校兒童一同、一〇圓